

原 著

慢性副鼻腔炎の下気道過敏性について

河野 敏朗¹⁾, 池田 陽一¹⁾, 佐久間 康徳¹⁾, 塩野 理¹⁾,
小松 正規¹⁾, 山下 ゆき子¹⁾, 小松 愛¹⁾, 波多野 孝¹⁾,
石戸谷 淳一¹⁾, 渡辺 牧子²⁾, 佃 守²⁾

¹⁾ 横浜市大附属市民総合医療センター 耳鼻咽喉科

²⁾ 横浜市立大学大学院医学研究科 頭頸部生体機能・病態医科学

要 旨：下気道疾患を合併していない慢性副鼻腔炎症例においても潜在的な下気道病変を合併している可能性があり、気道過敏性検査が有用であるといわれている。今回は、潜在的な下気道病変の有無を検討し、好酸球性副鼻腔炎，アレルギー性副鼻腔炎，非アレルギー性副鼻腔炎（従来型の慢性副鼻腔炎）の主に3亜型に分類し、慢性副鼻腔炎の臨床病態別に気道過敏性と臨床的特徴について検討した。対象症例41例の内訳は男性27例，女性14例であり平均年齢は48.8歳であった。好酸球性副鼻腔炎症例では21例中15例（71.4%）の症例で，アレルギー性鼻炎症例8例中6例（75.0%）の症例で，非アレルギー性副鼻腔炎症例11例中3例（27.3%）の症例にて下気道過敏性の亢進が認められた。好酸球性副鼻腔炎症例が，他のアレルギー性副鼻腔炎や非アレルギー性副鼻腔炎と比べて，最も log Dmin 値が低く気道過敏性が亢進していることを認めた。好酸球性副鼻腔炎の気道過敏性亢進の程度は，非アレルギー性副鼻腔炎に比べ有意に高く，アレルギー性副鼻腔炎よりも高い傾向を示した。喘息を合併していない好酸球性副鼻腔炎も，アレルギー性鼻炎同様に喘息発症の high risk グループと考えられた。

Key words: 気道過敏性 (Hypersensitivity of lower respiratory tract), 好酸球性副鼻腔炎 (eosinophilic sinusitis), 喘息 (asthma)